

# 一羊会だより

発行  
社会福祉法人一羊会  
事務局 〒663-8241  
西宮市津門大塚町1-47  
電話 (0798) 31-1760  
FAX (0798) 31-1763



おいらん  
**尼崎昌弘「花魁」**

1961年生まれ。彼の絵に黒のラインは欠かせない。

くらくらするような強烈な色づかいで画面を埋め尽くすが、本人はいたって穏やかで落ち着いている。

2012年からオランダとイギリスで開催されたヨーロッパ巡回展「Art Brut Japon」で、尼崎昌弘さん、舛次崇さん、宿間谷憲江さん、新田隆作さんの4名の作品が展示されました。左の絵はこの時に尼崎さんが出展した作品の一つです。

## 特集

### 「一羊会だより100号までのあゆみ Vol.3」

いよいよ最終回です。今回は付録で一羊会のアート活動の記事を載せています。一羊会のアート活動は、はたよしこ氏が代表を務める『アートスペースひとの森』が中心となっ  
て行なわれてきました。これまで開催されたさまざまな展覧会  
の記事の一部ご紹介しています。

## その他のページ

- ◆理事長挨拶
- ◆採用活動を通して
- ◆クルージング体験
- ◆一羊園秋祭り
- ◆武庫川ランプフェスティバル
- ◆寄贈のお礼、御寄付の報告



## 理事長 三浦 昇

いつも一羊会事業へのご支援ありがとうございます。今年も早、年の瀬を迎えようという時節になりました。

一羊会だより100号記念企画も今号で最終となります。創設の時の願いや想い、40数年の歴史の中にその時代その時代の取り組みの様子が伝わったことと存じます。

1960年（昭和35年）精神薄弱者福祉法が制定された時代、まだまだしょうがいがある人達への理解は薄く、差別感の強かった世相の中で、多くの篤志家や親達が熱い想いでしょうがいへの理解を訴え、制度を作り、更に発展させ法的な整備に尽力されてきました。

一羊会にあっても1970年（昭和45年）の親達による設立運動から現在に至るまで多くの人々に支えられながら、西宮の地で知的にしょうがいがある人達が地域で働き・暮らす生活支援の実現に向けて取り組んできた結果として現在があります。

1977年に一羊園が開設され、翌年からの作業所づくり、宿泊訓練、生活ホーム、グループホームといった暮らしの場への取り組みを進めてきましたが、それでもまだまだ西宮における社会資源、特に生活基盤となる暮らしの場は全然足りない状況が続いています。

“福祉は人なり”これは私が学生時代に育成会活動に加わり、「すずかけ共同作業所」に入職してから学び大切にしてきた『福祉の思想』の著者として有名な糸賀一雄氏が残された言葉です。また、“継続は力なり”“福祉は創るもの”という言葉も大切に取り組んできました。

私達、しょうがい者福祉に携わるものは、差別問題としてのしょうがいがある人達の歴史が、福祉サービスという名称で形骸化されることの無いよう、その置かれてきた歴史、しょうがい者観に想いを馳せ、この人達の労働権、生活権の確立に向けて真剣に前向きに取り組む、まさにしょうがい福祉を主体的に進めていく人材として育ていく姿勢が求められていると思います。

現在、一羊会で進行中の計画は「すずかけ作業所」の老朽化対応による移転建設計画と一羊園がある北部のグループホーム移転も含めた事業展開の大きく2本立ての計画です。

残念ながらいずれの計画もなかなかスムーズには進んでいないのが実状です。

資金計画、土地の確保、特に人材の確保等、気持ちははやるものの、粘り強くもうひと踏ん張りが必要といった状況です。

さて、前号にも書かせていただきましたが、社会福祉法が改正され、地域共生社会の構築がテーマとして顕在化してきました。福祉事業経営者は分野別の対応だけではなく「我が事」「まるごと」の取り組みによる総合的な地域福祉サービスの提供に努めるといったことが原則として義務付けられました。

一羊会では、まだまだ課題山積みの西宮市における知的しょうがい分野を中心に取り組む中で、地域共生社会への課題解決に向けても地域連携を大切に動きたいと考えています。

以上のようにやるべきことは沢山ありますが、基本理念である、一羊会は誰の為にあるのか、主人公は誰かを忘れることなく、少しずつでも具体的な取り組みにつなげていく所存です。

今後共、皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い致します。



## 採用活動を通して

理事部長 古川 勝 (採用担当)

福祉 = 3Kなどと言われ、介護分野の人気の下がったのは確か十数年ぐらい前と記憶しています。厚労省も介護分野の処遇の引き上げを約束し、処遇改善加算を導入して段階的に給与面では改善が図られました。ここ数年は企業の求人も増え、2018年問題に象徴されるように少子化の問題も重なり、採用の現場は売り手市場と言われています。

一羊会でも昨年度からホームページをリニューアルし、若い人たちの興味を引くデザインにしたり、採用のページでは先輩職員からの紹介メッセージを入れたりして内容の充実を図るなど、様々な工夫を凝らしています。この秋には2020年に向けて大学訪問を実施しています。

今の学生の採用における傾向は、まず地元志向であるということ、第2に休日など自分の時間がしっかりと持てるかということ、第3に給与だそうです。

一羊会については、給与は標準以上ですが、休日は平均より少ないという現状です。休日については今後増やしていく予定ですが、今の学生の希望する傾向とは逆になっています。しかしながら今年度の新卒採用の活動において、6名の採用が決まっており、引き続き選考中、選考前の学生もいます。業界的にはこれは優秀な成績ではないかと考えています。

私たちの仕事は対人援助職といわれており、非常に専門性の問われる仕事だと思います。それだけに仕事で得られる達成感が大きく、そこに魅力を感じる人たちが職員として応募してきます。

一羊会では今年も3月から月2回程度のペースで法人の就職説明会を開催し、ベテランから若手まで職員に協力してもらい、仕事の魅力を伝えてもらっています。その協力があって、学生たちが仕事の魅力に惹かれて、応募してくるのだと思います。仕事の魅力、やりがいを伝えていくことは法人の採用活動であるとともに、社会への啓発活動であり、今後も様々な活動を通じて福祉の魅力を伝えていきたいと考えています。



## クルージング体験

すずかけ作業所 赤松あゆみ

2018年10月12日（金）、西宮ロータリークラブ様よりクルージングのご招待があり、すずかけ作業所より利用者・職員合わせて20名で参加させて頂きました。

当日はお天気もよく、西宮浜を起点とした約1時間のクルージングを行ないました。

気持ち良い風と波しぶきを肌で感じることができ、利用者の皆さんも「気持ちいい！」と笑顔で話されていました。

下船後は、ヨットハーバー内のレストランにて西宮ロータリークラブの方々とランチを頂き

ました。最後に、2名の利用者の方が前に出て「楽しかったです。」「また来たいです。」と感想を話してくれました。

ご招待いただきました西宮ロータリークラブの皆さま、本当にありがとうございました。



## 一羊園 秋祭り

一羊園 上野 泰宏

今年も一羊園では、10月に秋祭りが行われました。

利用者の皆様のまず最初の楽しみが、祭りを彩る料理の数々。中でも家族会のたこ焼きは大人気で行列が出来ていました。

ごはんをしっかり食べた後は、ステージでのプログラムが始まりました。まず初めは、利用者と職員のバンドによる演奏です。音楽はどれも素敵で、観ていた利用者や演奏していた利用者の方も楽しまれていました。続いては、童謡コーラスによる合唱です。利用者の中には、コーラスの合唱に合わせて歌を歌っていた方もいました。そして最後を飾るのは、利用者皆様に参加する盆踊りです。今年は、初めて「一羊園音頭」を踊りの先生が考えて下さった振付で

一緒に踊りました。利用者の方も振付を覚えて、しっかり楽しく踊られていました。

今年の秋祭りが、一羊園の利用者、職員、当日会場に来て下さった皆様にとって素敵な思い出になっていることと思っております。最後に、ご協力頂きました家族会のみなさま、北六甲台、名塩、山口の各ボランティアセンターの皆様、ステージに出演された皆様ありがとうございました。





# 第21回 武庫川ランプフェスティバル

武庫川すずかけ作業所 柿坂 浩史

2018年9月15日に第21回武庫川ランプフェスティバルを開催いたしました。

今年度より、武庫川すずかけ作業所内での開催となりましたが、多くの方にご来場頂き、無事にイベントを終える事ができました。

今年度も出店・販売、フリーマーケット、ゲーム、ステージイベント等の様々な催し物がありました。

ステージイベントでは、毎年出演して頂いている武庫川すずかけ作業所の利用者が所属されている和太鼓グループ「ふたば」に加え、新たに放課後児童デイ「まなviva」による歌&ダンス、ジョイントの久保部長による「イリュージョン」の出演がありました。

出店・販売では、カレー、焼きそば、フラン

クフルト、かき氷、綿菓子、パン、ジュース類等の出店。販売では、すずかけ労働センターの自転車、各事業所の自主製品の販売をして頂きました。出店・販売には数名の武庫川すずかけ利用者に協力して頂きました。

例年ではありますが、地域の自治会、近隣の福祉団体、大学等が協力して武庫川ランプフェスティバルを開催しています。ご協力して頂いた皆様に感謝しながら、地域とのつながりを今後も大切にしていきたいと思いました。



## ありがとうございました 寄贈のお礼

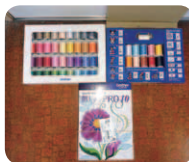
### ● すずかけ作業所 ●

一般財団法人高友福祉積善会様よりご寄付を頂き、縫製で使用するコンピューターミシン・刺繍ソフト・椅子・テーブル・ポッチャ・ポッチャ用ランプスを購入させて頂きました。ありがとうございました。

コンピューターミシンと刺繍ソフトでデザインの取り込みを行い、セットの糸を使いよりオリジナル性の高い商品を作り利用者の工賃アップを目指します。

テーブルは高さ調整ができるので一人一人が正しい姿勢で食事できるようになります。また、椅子には両肘かけがあるのでより安全性も高まります。

ポッチャとポッチャ用ランプスで利用者一人一人が今までよりも気軽にスポーツを楽しめる環境ができました。



### ● 一羊園 ●

一般財団法人高友福祉積善会様よりご寄付を頂き、ipadとポータブル冷凍庫を購入いたしました。いずれも利用者の皆さんのレクリエーションの中で、ipadは音楽や写真を楽しむため、冷凍庫はアイスクリーム等の保管のために活用させて頂きました。ありがとうございました。



一羊園だよりと

# 一羊会だより 100号までのあゆみ Vol.3



「一羊会だより 100号までのあゆみ」いよいよ今回は最終回です。一羊園設立までの長い道のりから始まり、すずかけ作業所がまだできたてほやほやの頃までの話が第1弾、すずかけの名のつく事業所が増えていき当時の利用者さんや事業所の様子がわかる第2弾、そして、今回は震災の頃から始まり最近の記事までを紹介します。

## 一羊園だより 第24号(1995年5月)～第72号(2010年12月)

■悲しい思い出です。しかし、当時の利用者、家族、職員の並々ならぬ頑張り、周囲の方々の温かさが伝わってきます。

神戸・淡路大震災「すずかけグループの被災状況」

すずかけ作業所 三浦 昇

1月17日午前5時46分を境に私達を取り巻く状況は大きく一変しました。大きな揺れと共に暗闇が襲いかかり今まで体験したことのない、とらえようのない言い知れぬ恐怖、驚きのなかで朝を迎えました。空が白んで明るくなった家の中は見るも無残、外に出ていく途中の道路はひびわれ傾き、帯状にいくつもの血痕が続いていました。近くの公衆電話から作業所に電話をするもなかなかかからず何度も何度もかけようやくつうじました。あ

りがたいことに近くに住む職員がすぐ駆け付けてくれており作業所、生活センターの建物はなんとか無事、利用者の安否の確認に動いてくれていました。作業所、生活センターも当初避難所として数十名の人が寝泊まりしながら今後の方針も立たないなか職員が主体的に安否確認、食料の調達をはじめ避難所生活の便宜を計ってくれていました。また、大阪の作業所からも多くの支援物資に助けられました。滋賀県の信楽青年寮をはじめとして北海道、岩手の関係施設からの職員派遣、学生ボランティアの派遣等日頃の交流の大切さを改めて感じさせられました。すずかけ作業所、第2作業所、第3作業所、労働センター、生活センターの利用者の多くも被災され家屋の全半壊を含め殆どが被災、一時は避難場所、親類宅に



多くが避難してなかなか連絡もとれない状況でした。中でも30件近くが全半壊の状況で今でも仮設住宅の入居が決まっていない家庭もあります。親の方が亡くなられたり怪我をされて入院された家庭、親類が亡くなられたり怪我をされた家庭もありました。そんななかで利用者(所員、従業員)がみんな無事であったことが救いです。労働センターは翌日より仕事はいろいろ活動を徐々に開始、他の作業所は1月30日より自主通所で再開しました。生活センターは通常開設していました。勿論、職員も家がつぶれたり親類が亡くなられたりで殆どが被災をうけた状態での出勤、神戸の自宅から歩いてきた職員もいました。とにかく震災から家庭のこと、職場のことを両立しながらすずかけの仲間達、職員達は立ち直りつつあります。そして多くの関係者の皆さんの支援には改めてその心いきの素晴らしさを感じ、所員みんなが震災の傷跡にもくじけることなく元気に今を生き抜いている力強さが伝わってきます。無言の中で彼らが「元気をだそうぜ」と心の復興の息ふきをしてきている様にも思えるのです。震災から3ヶ月あまり経ち、すずかけは今、4月より通常化にむけて動いています。私達を取り巻く周囲の状況はまだまだ復興までは時間がかかることと思われませんが、一人でも、一ヶ所でも早く立ち直ることを願うばかりです。余震の恐怖も幾許か薄らぎつつありますが生活への不安、不満が現実のものとして人々の心の中に頭をもたげてきている今、そしてこれから……。一人一人の生活がもと通りにもどるまでにはまだまだいろいろな困難が予測されます。それだけ見通しがたてにくい被災状況。そのために施設としてできること、すべきことは何か、個人としてはどうか等々課題は盛り沢山で根気よく取り組むしかないようです。今回の震災では本当に多くの団体、グループ、個人の方達の支援に支えられた部分が多く、新たな出会いも数多くありました。紙面を借りて心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。これを機にさらに交流を深められればと考えております。まだまだ震災の余韻は長引きますが気長に頑張りたいと思いますので今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。

第24号(1995年5月29日)

■数々のご要望に応え、ついに、一羊園に通所部ができました。

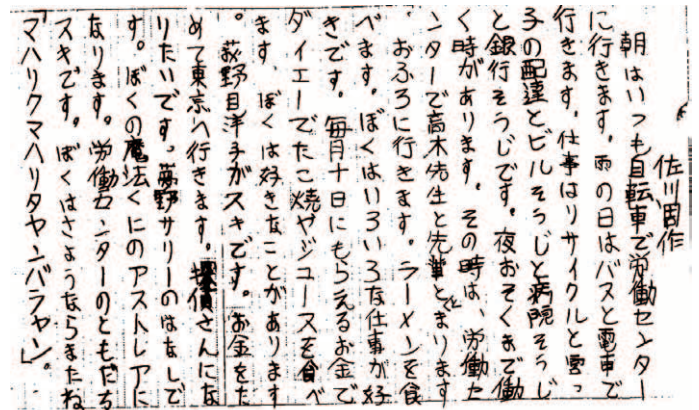
「通所部誕生」

一羊園園長 藤田 隆治

西宮北部地域の人口増は著しいものがあります。山口町の高台から見おろせば本当に家がふえてきたことを実感します。その中には障害を持つ方もおられます。通所施設は西宮南部に集中し、北部の方が通うのに不便です。その人達の要望にもこたえて、一羊園にも通所部を発足することになりました。今その準備に追われています。7名定員で現在5名の方の希望があります。福祉施設は地域のためのサービスを視野において運営していかなければなりません。通所部を運営することもその一端だとも思います。一羊園は開園以来50名の定員の居住施設

で歩んできました。これは前理事長長久清先生の、規模を大きくすることを望まれなかったことによります。今の50名も大きすぎる集団だと、2寮にし35名と15名に別れて生活しています。しかし社会の動きにもこたえていくために通所部が誕生しました。22年前の開園時には地元の方のご理解をえるために大変苦勞されたことも聞いています。何とか、色々な方のご協力を得て今回もすすめてきました。通所部が地域と施設を結ぶよい原動力になればと楽しみにしています。

第33号(1999年3月23日)



現在、すずかけ作業所所属の佐川さんの作文です。第11号(2000年10月9日発行)に掲載されました。※初期の一羊会だよりでは利用者の作文を載せていました。

■一羊会ジョイントのホームは現在13か所ありますが、まだ、4か所しかなかった頃のお話です。

「『ほんわかホーム』をステップにして」

すずかけ生活センター 吉見 敬子

すずかけ生活センターには、4つの定住型ホームと1つの訓練型ホームがあります。定住型は「ホーム俊」(2ヶ所・桜谷町)、「水波町ホーム」(今津水波町)、「グループホーム」(津門稲荷町)です。「ほんわかホーム」(訓練型)は「グループホーム」の隣にあります。昨年まで保護者と職員による運営委員会で運営してきましたが、今年度から法人運営に移りました。「ほんわかホーム」は、すずかけ作業所のレスパイトケアの取り組み(家族の介護疲れを軽減するために、定期的な宿泊の場を提供しよう、と作業所を使って宿泊を始めた)から始まりました。平成9年7月、現在のマンションに移り、レスパイトケアとしてだけでなく、共同生活や自立に向けての経験を積んでいく場としても大切な役割を担うホームとなってきました。障害の重い人も多く、職員の補助として学生や主婦にアルバイトで来てもらっていますが、その関わりの中から障害がある人への理解が深まっていくことを実感し、これも大事な役割だと思っています。今年4月、3名が「グループホーム」に入居し、新たな一步を踏み出しました。定住型ホームへの希望も、レスパイトケアの充実を望む声も多く、課題は多いですが、「今度いつ泊まるの?」と楽しみにしてくれている所員の笑顔に励まされながら、ひとりひとりのステップアップに役立てるホームであるよう、みんなで力を合わせていきたいと思っています。

第43号(2002年12月5日発行)

■御存じ、元一羊会高木部長さんが、すずかけ労働センター15年目にお書きになった記事です。しょうがいがある方が働くことについて、その理念と実践について書かれていて、とても感銘を受ける文章です。

### 「15年の道」

すずかけ労働センター所長 高木 博敏

1987年7月、西宮市手をつなぐ親の会（現社団法人西宮市手をつなぐ育成会）の、「授産施設からの出口となり、より一般社会の就労に近い形で働く場の設計計画」を一羊会が受け、すずかけ労働センターは開設されました。作業の中心は、自転車リサイクル。岡山・金沢など遠方への荷物運搬。明石・淡路島への泊まりがけの除草。ビルメンテナンスは職員の深夜アルバイト修行からの展開でした。そして武庫川団地樹のまち管理組合との清掃業務委託直接契約。作業所としての自立運営の為いろいろな仕事にチャレンジしてきました。設立当時の目標を変えず、ここまで実践し続けられたのは、働くことを応援し仕事を紹介して下さった育成会関係の皆様をはじめ、仕事を通じてその時々知り合った自転車商組合、造園、清掃など業者の人たちの力が大きかったと思います。何よりも仕事の大切さをはじめ、私たち福祉に携わる職員には忘れがちな“生きる為に働く”ことを教えてもらいました。従業員たちは、例えば自転車を磨き、その自転車を売りお金が入るといふ“自分の働いたことが労働として認められ、それがお金に変わる”が仕事なんだと学びました。現在全国で6000カ所の小規模作業所。その中で労働センターは多様な作業形態・収益率においては1番だと自負しています。＜働き給料を得る＞ということを中心に、一つの仕事を追求する。貰うお金の分しっかり仕事する。仕事の終わりが1日の終わり。終われば「お疲れさん。また明日。」一般社会で働く人たちが自分の生活を守る為あたりまえにしているそんな毎日を15年続けてきたのです。始まりの場所は愛宕山の元老人ホーム厨房の中から。障がいを持っていても働ける・働かせてみたいという気持ちから始まった道が、多くの人に働くことを教えられ今日まで続いています。自信があります。働くことに。できない仕事もできる事に変えてみせます。人数が増え、建物も立派になりましたが、気持ちは15年前と変わっていません。障がいはあるけれど働きたい！給料を貰って自分の生活がしたい！そんなありふれてはいるけれど簡単ではない夢のために。従業員も職員も常に一般社会の労働を基準に前向きに進みます。応援してください。

一障がいがあったら深夜まで働けませんか？

一障がいがあるから安全で快適なところでしか働けませんか？ …でも不況はつらい

第44号（2003年3月6日発行）

■ジョイント発足の年に初めて一羊会マスタープランができたんですね。

### ジョイント発足

地域生活支援センター「ジョイント」 所長 三浦 昇  
一昨年度より取り組んでまいりました改革推進プロ

ジェクトの成果として向こう5カ年の「一羊会マスタープラン」が完成いたしました。その中でも地域生活に関する計画は盛りだくさん。今年から新たにスタートした地域生活支援センター「ジョイント」としてもボリュームいっぱいです。ところで昨年4月はただの地域生活支援センターでしたが、今年度からは「ジョイント」という名称がつけました。これは今まで知的にしょうがいがある人達の地域での生活を何とか支えたいという想いで取り組まれてきた社団法人西宮市手をつなぐ育成会の事業を一羊会が引き継いでいくことになり、今までの育成会の想いも引き継いでいく、そういうコンセプトで「ジョイント」という名称も引き継がせていただいたのです。というわけで4月から「すずかけ作業所」の3階を事務所にして職員、ヘルパー、アルバイトスタッフ入り乱れての奮闘が続いています。熱い想いを受け継いで、その温度を保ちつつ燃え尽きないようにがんばります。

第49号（2004年6月28日発行）



（すずかけ労働センターで自転車リサイクル作業をしている一コマです）

■すずかけのすぐ前にあった大塚町団地にお住いの中村さんには大変お世話になりました。その大塚町団地ももう取り壊されます。

「大塚町団地 中村さんに訊く」（一部のみ掲載）

インタビュー 久保 廣高

今回、インタビューさせていただいた中村さんは、すずかけ作業所のすぐ前にある団地にお住まいです。日頃からいろいろな面でお世話になっていて、特に作業所の前の庭は毎日手入れをしてくださり、四季折々の花で私たちの目を楽しませてくださっています。

Q：中村さんとすずかけ作業所とのかかわりはいつ頃どんなふうになったのですか？

A：すずかけの前に庭がありますが、そこをなんとか見栄えのよいものにしたいと思って花を植えたのがきっかけです。定年後から始めましたからもう7年になります。それとある利用者のお母さんと書道の教室でたまたま一緒だったので、そのときにいろいろ詳しいことを知って、利用者の一人一人に注目するようになりました。



Q: 私どものような施設は地域とのつながりを大切にしなければならぬとよく言われますが、中村さんはどのように思われますか？

A: 作業所と地域の結びつきはとても大事だと思います。すずかけと団地の関係も今以上に深くしていく必要があると思います。普段からの付き合いを大切に、つねに交流があれば、なにかあったときにも大きな力になります。作業所は地域の中で特殊な存在でなく、地域の一部であって欲しいと思います。私は若い方と話すのが好きで、皆さんのような若い方と話していると元気をもらいます。ですから、普段よく作業所の職員さんと話をしますが、皆さんの方からもどんどん地域の人との交流を求めていってくださいね。

第51号(2004年12月14日発行)

■今度は、高木さんの「西宮神社十日戎街頭募金物語」です。厳しい時もあったかと思いますが、当時の情熱と懐かしい温もりが伝わってきます。

“今年も56万円の浄財 ありがとうございます。”  
「西宮神社十日戎街頭募金物語」

一羊会後援会 事務局 高木 博敏

西宮市手をつなぐ親の会(現、社団法人西宮市手をつなぐ育成会)が、一羊園建設をめざして十日戎街頭募金とうどん店を始めたのが1973年。私は家族が親の会会員であったこと、関西学院大学のボランティアサークルしゃぼん玉に入会したことがご縁で、手伝いを始めたのが1976年ですからもう30年休まずあの赤門前に立っていた勘定になります。歳もとるはずですが、赤門前に親の会のうどん店があった頃はとっても楽しかったです。休憩にあったかいうどんやおでんをいただいたり、お母さん方と一緒にお店の手伝いをしたり…。3日間は0時くらいまで店も営業し、募金もやっていました。親達がエプロン姿にたすきがけでがんばる姿に、参拝者から寄せられる善意は毎年100万円を超えていました。親の会が一羊園の建設資金借入金の返済を完了してくださったあとは、一羊会後援会が交代して一羊会の施設運営を援助するために継続しています。金額は当時には、はるかにおよびませんでしたが、今年もたくさんの善意が集まりました。詐欺まがいの募金活動が横行しており、風当たりが強いかもしいと心配していましたが、特にトラブルもなく無事終えることができ感謝しております。

おうちから貯めた小銭を袋に入れて持参して、入れてくれるちびっ子。質素(失礼ながら)な服装のポケットからしわがれた手で小銭を取り出し入れてくださるおじいちゃんやおばあちゃん。ご自身が車椅子で参拝だけでも難儀しておられるご様子なのに協力してくださる方。「おう、募金や入れとこうや」と仲間協力してくれるヤンキー風のにちゃんたち。派手な服装を身にまとうて気取った感じだけど立ち止まって高価そうな財布を開けて入れてくれるギャル。「船坂の一羊園やな、クッキーのすずかけやな、この募金は確かやで皆入れたってや」と叫んでくれる酔っ払いさん。「あれー高木君ちゃうん。なにしてんの？募金？しゃあないな」と言って入れてくれ

る旧友や飲み屋のママ。自分の商売で忙しいのに小走りを入れていってくれるテキヤのおにいちゃん。「今小銭しかないから、ちょっと戻ってきますわ。」と行って会社に取りに帰ってお札を入れてくれた取引業者の社長さん…。「毎年ご苦労様」と励ましながら入れてくださる元一羊会利用者家族の方や、現在の家族の方。今年は、子供さんに数万円を渡して入れてくださり姿も見せられずに立ち去った方がおられたのには本当にびっくり感謝感激でした。3日間立ち通しだった清水理事長、作業の合間に駆けつけてくれた労働センターの従業員諸君、業務が終わってから駆けつけ、遅くまで立ってくれた職員達、毎年立ってくださる保護者の方々、皆様、本当にありがとうございます。きつとえびす様の福をいただけたことでしょう。今年から一羊会は、障害がある人もない人も、この西宮で安心して暮らしていくことができるように支援をしていく拠点となる「地域生活支援センター・ジョイント」を建設するために資金の積み立てをはじめます。一羊会後援会も一羊会の夢を現実とするために、全力をあげてバックアップしてまいりますので、来年もどうぞよろしくお願いいたします。末尾ではございますが、長年にわたりまして街頭募金の立場所の使用許可をいただいております宗教法人西宮神社さまと阪神電気鉄道株式会社さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。

第56号(2006年3月27日発行)



■秋山部長が第2にいて、久保部長がすずかけにいた頃、労働センターに続く働いて稼ぐチームを作ろうと、すずかけと第2と武庫川すずかけからバリバリ働けるメンバーを集めて作った外作業チームが試行チームです。労働センターの宮川さん(当時すずかけ)と佐竹さん(当時第2)も当時加わっていました。

「試行チームについて」

すずかけ第2作業所 秋山 健一

「こんにちは!」、「久しぶりやな?元気だった?」、「はじめまして、〇〇です」といった会話が6月以降のすずかけ作業所やすずかけ第2作業所の昼食時には、飛び交っていて食堂の雰囲気もいつもと少し違って感じられる日があります。これは、障害者自立支援法に伴い、法人と

して就労継続支援事業B型（工賃3万円以上）の設置を目指して6月からスタートした試行チームの利用者や職員が、作業現場に近い作業所で昼食を食べている風景です（注：実際には写真がありました）。メンバーは利用者18名（すずかけ作業所8名・すずかけ第2作業所8名・武庫川すずかけ作業所2名）と担当職員4名（すずかけ作業所から2名と第2作業所から2名）で構成しています。試行のチームの拠点は、交通至便なすずかけ作業所に置き、第2作業所の利用者の数名は新たにバスや電車など公共の交通機関を利用して、自力通所の取り組みをすすめています。西宮浜の第2作業所に今まで通所していた利用者もすずかけ作業所なら作業所の送迎車でなく、バス・電車などの利用ができ、これまで送迎車に1時間以上乗っていた人が一人でバスと電車を乗り継いで通所できるようになってきました。本人の意欲や家族の協力や職員の見守りの成果がどんどん現れてきています。（中略）これからもどの作業についても、一つ一つの工程を丁寧に、確実に、一人一人の力になるように、取り組みを積み重ねていき、目標である事業移行の際には法人の正式な事業として成り立つようにしたいと思います。

第58号（2006年9月25日発行）



上の写真は東大阪の通称「機械団地」にある滝澤商会さんでの作業の一コマです。この中古金属加工機械の清掃作業は試行チームの目玉作業の一つで、つなぎを着て油まみれで仕事をしました。中古の機械にべっとりついた油污れを特殊な洗剤をつけた布で丁寧に拭いていき、仕上げにワックスをかけます。1台を仕上げるのに3~4日はかかります。そしてきれいになった機械は外国、主に東南アジアに輸出されます。当時週3回、4~5人のチームで仕事に行っていました。社長さん、その奥さん、工場の方たちは、利用者にとっても親切にしてくれて、みんなも頑張って仕事することができました。



ほぼ一年かけてこの特集を手がけてきました。『一羊会だより』の前身『一羊園だより』の全43号と合わせて143号分の記事を今回じっくり読ませていただき、改めて一羊会の歴史の長さ・深さを感じました。古い記事は、利用者の書いた作文や似顔絵もたくさんあって、手作り感がたっぷりでした。職員の素直な気持ちを表した文章も多くとても深い味わいがあります。今後は、このような要素も入れていき、皆さんに喜んでいただけるような紙面にしたいと思っています。さて今回の特集でぜひ入れたかったのが、一羊会のアート活動のあゆみです。絵画クラブの発足から数々の展覧会を記事にしてきました。全ては難しいのでほんの一部をご紹介します。まずは絵画クラブの主宰者である、はた先生がお書きになった文章から。

「ボランティア」

秦 芳子

ある時、養護学校の美術展を観る機会がありその自由で無邪気な色や形に惹かれたのですが、その時ふと、「学校を出てからの彼らは絵を描くことがあるのだろうか」と思いました。大人になっても絵を描くのが好きな私の様な人間がいる様に彼らの中にもきっと大人になっても絵を描くのが好きな人間がいるだろう。そんな時、友人の紹介ですずかけの片山先生に出会いました。彼女は「それおもしろいです。やってみて下さいよ」と静かだけど自信に満ちた目つきで言ってくれました。さあ、かえって不安になったのは私の方です。こうしてかなりの不安の中でスタートした最初の日。その驚きを私は今でもはっきり思い出します。始め緊張していた彼らが一枚描くごとに表情を変えてゆく。嬉々としてゆく。ぼーっとしている人などいない。次から次へと描くものがあふれて来る。今描かねば明日はもうないという様に黙々と描く。大きな体を丸めてやさしくやさしく撫でる様に色を塗っている。自分の描いた絵を何度も並べては満足そうに見入っている。あー。やっぱり絵を描くのが好きなんだ。私は余計な不安を抱いていた自分を恥じました。色や線を使って白い紙を思いのままに自分の領域に変えてゆくことの快感は、私にはよーく分かりました。これならやれる。その時はっきり思いました。月2回の土曜日をめどに「すずかけ絵画クラブ」はスタートしました。一言も言葉を発してくれない人が絵の中でぐいぐい自己表現をやり始める。私も周りの職員も完全に圧倒されおたおたしています。ねえどうやったらそんな思いもつかないステキな形が描けるのと私が教えを請いたい様な絵をヒョイヒョイ描いてくれます。一見武骨なこの人のどこにこんなにもやさしい感性がうもれていたのかと私は何度も絶句してしまいます。これは何としても世間に見せたい。話はみるみる盛り上がり展覧会はこの秋です。クラブの皆はまだピンと来てない様ですが、でもこの頃は「私は絵を描くのが好きだ」という自信と誇りに満ちた顔つきになっています。彼らの心の爆発をぜひ多くの人に観ていただきたいと思っています。

第16号（1992年4月20日）





### 「アール・ブリュット・ジャポネ」展と

#### アール・ブリュットの現状

武庫川すずかけ作業所絵画クラブ担当 犬島 佐智子  
 すずかけ絵画クラブが始まった20年前は絵画活動を行っている作業所はほとんどなく、ようやく日本でアウトサイダーアート(=アール・ブリュット/既存の美術にとらわれていない表現)という言葉が美術愛好家に知れ始めた時だった。それが今、アール・ブリュットの日本人作家63名(すずかけ絵画クラブからは、3名の作品が渡仏した。)の展覧会が、パリ市立アル・サン・ピエール美術館で行われ、フランスで注目を浴びているのだ。その注目は、今までに開催した展覧会の倍の集客となり、予定していた会期が半年延長される程である。美術館の館長は、私達にむけての挨拶で、「選定において本当の意味でのアート作品を選んだ」とおっしゃられた。それは、美術作品として素晴らしいというひとつの評価だ。私は美術館で、漢字がびっしり描かれた作品や、文章が描かれた作品に魅入っている人を何人か見た。日本人であれば、その内容に面白みを感じるかもしれないが、そうでない彼らは、おそらくそのフォルムに魅入っているのだろう。それは、63名の作品が言語を超えアートとして評価されているという証明ではないだろうか。私は、それが嬉しくてならない。(中略)すずかけ絵画クラブの作家達は、こういった周りの盛り上がりとは関係なく、20年前と同じように、ただひたむきに描き続けている。これこそが、アウトサイダーアート作家の特徴とも言われている。だからこそ私も、彼らの制作スタイルを崩す事無く、変わらぬ支援をつづけていきたいと思っている。

第72号(2010年12月6日)

### 「君は手ぶらでやってきた vol.3」の開催(一部抜粋)

あとりえずずかけ 光永 惟行  
 すずかけ絵画クラブは10月17日(土)~20日(火)の4日間、西宮ガーデンズ内4階ガーデンズホールで、一羊会とアートスペースひとの森共催の展覧会「君は手ぶらでやってきた vol.3」を開催しました。

絵画クラブは1991年にはたよしこ先生が始めて以来、今年で24年になります。これまでも企画展は何度か行ってきましたが、「君は手ぶらでやってきた」というタイトルの展覧会を西宮ガーデンズで行うのは今回で6年ぶり2回目となりました。会場には、絵画クラブに在籍している35名の作家の100点を超える作品を展示し、ホール内に個性豊かな作品たちが一同に並びました。中には今回が初出展の作家もいて、今までなかなか出展の機会がなかった作品を発表するきっかけにもなりました。来場者数は709名でした。普段絵画に興味のない方々にもすずかけ絵画クラブのことを知っていただく機会となりました。来場者からの感想は、作品それぞれの個性の強さに感心されている方が多かったです。また、人によって好きな作品が違っているのが面白い点でした。「期間が短い」「またやってほしい」などの意見も多くありました。今回の企画の意図としては、作品を発表する機会を作ることが大きな目的でした。元々描くことや創作が好きなメンバーが絵画クラブに参加していますが、やはり自分の作品が人前で展示されるのは、作家本人のモチベーションにもつながっていることと思います。見に来た作家は、自分の作品をじっと眺めたり、作品と一緒に写真を撮ったり、他の作家の作品を見て感心していたりと、どの方もそれぞれの楽しみ方をされていたようです。今回様々な形のデザイナーと関わる機会があり、デザインするということの重要さを思い知りました。それぞれの作家たちがどこからか感じ取ったものを絵や立体物に表現することは、それだけでもきつと素晴らしいのですが、その素晴らしさを壊さないように広げていくことが、これからの私たちの役目なのではないかと感じています。すずかけ絵画クラブは今後も今まで通りのペースで、作家一人一人が思い思いの創作活動を行えるように続けていきます。

第92号(2015年12月14日)



\*一羊園だより、一羊会だよりでは個人名が出てきますが、当時の原文のままの表記ですので関係の皆様にはご理解、ご了承の程よろしくお願い致します。

\*各記事は、全文掲載ではなく一部抜粋のものもありますので、ご了承の程よろしくお願い致します。

企画構成：久保廣高(ジョイント) レイアウト：岡仲光(一羊園) 写真：神田浩平(ジョイント) 監修：三浦昇(理事長)

法人・事業所御寄付の報告(敬称略・順不同)

2018年7月1日~2018年10月31日

\*法人

田中ふみゑ 一羊会後援会 2件

\*一羊園

一羊園家族会 一般社団法人高友福祉積善会 2件

\*すずかけ作業所

池田町住宅管理運営委員会 すずかけ作業所保護者会 一般社団法人高友福祉積善会 3件

\*武庫川すずかけ作業所

平野ひろ子(4件) 柴田美子 用海公民館 茶の湯の会 市民文化祭懸釜参加者一同 武庫川すずかけ作業所保護者会 匿名 8件

\*上甲子園すずかけ作業所

上甲子園すずかけ作業所保護者会 山本加津美 2件

2018年度一羊会後援会会費(敬称略・順不同)

(2018年6月23日~11月7日)

\*法人団体の部

YOU・ゆう高木婦人会 武庫川すずかけ作業所保護者会 すずかけ労働センター保護者会 大関エステート(株)
(株)ケージークレセント 税理士法人丸岡&パートナーズ (株)岡崎石材店 (宗)圓滿寺 サンコウ消毒
(一社)西宮市薬剤師会 (一社)西宮市歯科医師会 夙川地区民生委員・児童委員協議会 (宗)海清寺 大関(株)
大喜建設(株) (宗)西宮神社 (株)巨勢工務店 (株)新井組 18件

\*個人の部

椿本和生 岩井久美子 栗原裕実 松枝千尋 吉田高 谷田松子 堀江史子 四方勝 深見秀敏
中村絢子 唐沢文子 北川泰寿 藪田君子 瀧川千津子 瀧川秀樹 万竝健二 大前はるよ 日高昭夫
井上尚子 長谷隆行 久保田晴子 田中京子 近藤慶子 浜田良子 柴山洋子 渡辺洋子 長部文治郎
伊藤節子 吉野千恵子 武内浩子 高木説子 西田智子 車田光子 大村貞明 早川典江 山本圭吾 36件

2018年度一羊会後援会御寄付(敬称略・順不同)

(2018年6月23日~11月7日)

\*法人団体の部

(株)ヤマムラ 西宮浜産業団地協議会 小山(株) 社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所 4件

\*個人の部

岩井久美子 本田洋子 宮脇葉子 唐沢文子 高谷知子
是常孝男 長谷隆行 久保田晴子 山口静枝 柴山洋子
大目修平 鎌谷泰子 高木説子 馬場光子 重久隆
大村貞明 16件

口座名義 一羊会後援会
【銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061
【郵便振替口座】01190-8-66322

● 一羊会後援会よりお知らせ ●

後援会の販売事業として長年続けている、「はたらく仲間のうた」カレンダーの販売を、今年も実施しました。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

また、2019年も1月9日~11日の三日間、十日戎での募金活動を西宮神社の南門前、もしくは赤門前で実施しますのでよろしく願いいたします。